



IZUMI は三重県生まれ、筑波大学大学院芸術研究科修了。FACE2016（東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館）上野の森美術館大賞展 2016、17 に入選している。作品と本人の印象で、これまで別の名で活動していたと感じた。IZUMI が描く世界は、事物が生きる瞬間でもあり永遠でもある。昔あっても今はないが、今あっても未来にないかもしれない。昔あったという確証はできないが、今あればこれまでもあることになってしまう。このような不確定な要素とは、実は存在する全てに当て嵌まるのではないだろうか。我々は今というその瞬間を自覚し、確信し、信念を携えていなければ生きている証拠を掴むことができなく

なる。多岐に亘る IZUMI の作品で、私が特に注目したのは大人の絵画と子供の絵が入り混じっている、上記の一番大きい写真のタイプである。皆本二三江（1926-）は子どもの絵に表れる性差、頭足人、閉じられた宴など、様々な問題と格闘している。近著に『「お絵かきの創造力」』（春秋社/2017年）があるので、読んで欲しい。私は皆本の研究をしている過程で、大人の絵画と子供の絵は環境や成長といった過程で変化するのではなく、はじめから異なるものではないかと考えている。IZUMI がこの二つのタイプの作品を一つの画面に構築したので、社会に役立てる作品と自らのための絵の違いに思いを馳せたのであった。

